



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：米国との共同防空演習の実施

(10月20日付現地各紙)

10月21日に開始される米・イスラエル共同防空演習ジュニパー・コブラに関し、20日付現地各紙が報じている。概要は以下の通り。

1. マアリブ紙（表題：イランへのメッセージ・米国との共同演習）
  - (1) イスラエルにおける最大規模の防空演習が、数日中に開始される。ジュニパー・コブラ演習は、幾つかの正面での対イスラエル弾道ミサイル攻撃を模擬することになる。この演習の中で、イスラエルが全面戦争に巻き込まれ、シリア、ヒズボラ、イランから中距離ミサイルや（ガザからの）原始的なカッサム・ロケットによる攻撃を受けるシナリオが検証される。
  - (2) この数日間、米軍兵士がIDF（イスラエル軍）の複数の基地に宿泊を開始し、一時的指揮所の構築にとりかかった。国防関係者は、「様々なレーダーステーションが海岸沿いに展開することになり、イスラエル国民は海上で様々なミサイル艦を目撃することになる」と述べた。
  - (3) 千人単位の米兵が独国シュトゥットガルトを主体とする在欧州基地から派遣され、彼らの殆どは、ネゲブ砂漠に配置される。米海軍は、この地域に17隻の艦艇を派遣するが、これらの殆どは、ミサイル防衛能力を有している模様。
2. イェディオット・アハロノット紙（表題：シリアとイランを懸念させる演習）
  - (1) この数日間、イスラエルは様々なチャンネルを通じて、（イスラエルからの）攻撃的な活動のために、この演習を利用する意図はないとのメッセージを発信してきた。しかし、イランとシリアは、この演習への懸念もさることながら、この演習の結果に大きな関心を寄せ、イスラエル自身のミサイル防衛能力の弱点を探ろうと情報活動を集中している。
  - (2) この演習には、イスラエル空軍から複数のアロー2大隊の他、米国からTHAAD、パトリオット、ホーク、弾道ミサイル防衛能力を持つ（イージス）艦が参加する。更に、約一年前にネゲブ砂漠に配置された米国のレーダーシステムも稼働することになる。
  - (3) 同演習の終了までに、米国の防空システムは、ミサイル発射を伴う実弾による迎撃を実施する。
  - (4) 千人以上の米軍人が、本演習に参加するためにイスラエルへ到着した。彼らの大半は、欧州軍に所属しており、イスラエル空軍のネバティム基地へのダイレクトフライトで到着した。
  - (5) 演習に向けたシステムのウォーミングアップが既に数日前から始まっている。この演習は約二週間継続する。